

リサーチの方法（２）

北海道支部副支部長・論題検討委員 岡山洋一

3. 各資料の特徴

3-1 図書の特徴

通常図書の出版には原稿作成から印刷まで時間がかかりますので、情報源としての即効性はありません。しかし時間がかかるゆえに、出版されたものの多くは、情報源として信頼性はある方だと言って良いでしょう。

図書は現状を否定する立場をとっているものが多いので、肯定側資料として使えるものが多いのも事実です。なぜなら、現状を肯定するような図書は誰も読みたがらないでしょうし、売れないので出版されないからです。ただし、白書などの政府刊行物はこの限りではありません。

3-2 雑誌記事・論文の特徴

雑誌とは、日頃よく目にする週刊誌、月刊誌などの商業雑誌から、学術雑誌、専門雑誌、研究紀要までをいいます。これらの雑誌の総タイトル数は二万弱あります。

情報源としての雑誌記事の即効性は、新聞に比べれば劣りますが、図書よりは早く、証拠資料として使うには有効です。資料としての信頼性は、雑誌によります。査読された論文は信憑性がありますが、大学の紀要論文などは、質の劣るものもあります。週刊誌、月刊誌などには怪しい資料も多くあります。

内容についても、肯定側、否定側両方の立場の記事も多く、また専門雑誌などは非常に詳しく書かれているため、大変役立ちます。お勧めです。

3-3 新聞記事の特徴

図書、雑誌に比べ、一番即効性があります。しかし記事が常に正しいとは限りません。時には誤った報道もあります。

同じニュースでも各社の立場があり、各新聞によって記事の内容が違います。事実と思っても、それはあくまで記者の目をとおしたものであって、事実そのものではありません。

記事の信憑性には注意が必要です。

4. インターネットを利用した検索方法

4-1 図書の探し方

図書を探すには、まずインターネット上のデータベースで検索するのが手っ取り早く、手間もかからないので良いでしょう。

「amazon」(<http://www.amazon.co.jp/>)や「7 & Y」(<http://www.7andy.jp/all>)などで検索してみましょう。検索は図書のタイトルで行うのではなく、キーワード検索などで、内容から検索することが重要です。

ネット上のデータベースで検索する場合は、一つのデータベースで検索するだけでなく、複数のデータベースで検索することをお勧めします。それぞれの内容の記述、扱っている出版社などの違いによって、扱っている図書に違いがある場合があります。こちらのデータベースではヒットしなかったけれども、こちらではヒットしたということがたまにあるからです。

国立国会図書館の検索システム、NDL-OPAC(<http://www.ndl.go.jp/>)でも検索しましょう。日本のほとんどの図書が網羅されています。

国立情報学研究所の連想検索 Webcat Plus (<http://webcatplus-international.nii.ac.jp/>)でも検索してみましょう。連想検索とは、人間が、ひとつの言葉から無意識のうちにいくつかの関連する単語を思い浮かべるように、検索キーワードから関連性の高い単語を抽出し、それを含む図書をもれなく探し出す検索方法です。検索のコツは、とにかく、思いつく限りのいろいろなキーワード、文章を入力して見ることです。検索語が多いほどヒット数も上がります。

4-2 雑誌記事・論文の探し方

雑誌記事・論文は、国立国会図書館の検索システム NDL-OPAC で検索します。記事や

論文はタイトルからしか検索できませんので、検索語の工夫が必要です。思いつく限りの検索後を入力して何度も検索してみましょう。数字なども記述方法を変えて検索してみましょう。「学校週 5 日制」と「学校週五日制」だと、検索結果も違ってきます。

4-3 新聞記事の探し方

新聞記事の検索は、**G-Search**(<http://db.g-search.or.jp/>)が手っ取り早く、確実です。読売、毎日、朝日の他地方新聞、専門誌などが検索できます。ただ有料で、全ての記事を表示させるには、かなりのお金がかかります。図書館によっては無料で使わせてくれるところもありますので、利用すると良いでしょう。

新聞は専門誌まで含めると、**330** 以上あります。専門誌は、一般には手に入らないような情報の宝庫です。専門誌は、平井雅英氏作成のリンク集、全国の新聞(<http://www.hir-net.com/link/np/index.html>)で調べてみると良いでしょう。

無料で使える新聞記事検索に、沖縄タイムス(<http://www.okinawatimes.co.jp/>)の全記事検索データベースがあります。**1997** 年以降の全文を無料で検索できます。もちろん沖縄県内のニュースだけではなく、全国的なニュースも数多く含まれています。このデータベースでまず検索し、そこからニュースの日付を確定させ、他の新聞を図書館で調べる方法もあります。

5. その他の検索方法

5-1 索引法

レファレンス・ブックを使って調べる方法です。事柄を調べるためのレファレンス・ブック(事典、辞典、便覧、ハンドブック、統計、年鑑など)と、文献を調べるためのレファレンス・ブック(目録・書誌・雑誌記事索引)があります。

レファレンス・ブックには、「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」「イミダス」などがあります。また、ある問題、事柄に特化した雑誌記事索引などもありますので、大変参考になります。

5-2 イモヅル式検索法

各図書、雑誌、論文の巻末などにある参考文献リストから、それぞれの文献をたどって検索する方法です。参考文献リストは、その道の専門家が時間とお金をかけて集めたものです。素人が簡単にはたどりつけないような資料もあります。参考文献リストは良質なリンク集です。これを使わない手はありません。

5-3 ブラウジング

図書館や書店などに行き、目的の図書や雑誌を探すときに、その周りの書棚も見てみましょう。図書は無作為に並べてあるわけではありません。関係あるものが必ず近くに並べてあります。これは、図書館の人や書店の人が、あなたのために関係あるものを並べてくれたのだと思います。

このように目的の図書以外に、書棚をざっと見渡し関係するものを探すことを「ブラウジング」と言います。レファレンス・ブックで記事を探すときにも、周りの項目をざっと見てみましょう。思いもかけず、重要な項目に気づくことがあります。これもブラウジングです。

実践記録、モデルなどに使われている証拠資料の原典を確認するときは、その部分だけ読むのではなく、前後も読んでみましょう。新たな証拠資料を発見できるかもしれません。これはイモヅル式検索法とブラウジングをあわせた方法です。

5-4 レファレンス・サービス

図書館には必ずレファレンス・サービスがあります。専門の司書の方が、いろいろと相談にのってくれます。調べていて分からないことがあったら、相談してみましょう。

司書の方は調べることのプロですが、当然人によって差があります。また当然のことながら、ディベートを知っているわけではありませんので(中には知っている人もいますかもしれませんが)、ディベートのリサーチで欲しい資料を都合よく入手できる訳ではありません。レファレンス・サービスを使うときは、具体的にどういう情報が欲しいのかを明確にしてから相談しましょう。